

「桜山小学校及び桜山中学校の山下・水流太鼓踊り伝承活動の取組」

1 学校名

枕崎市立桜山小学校，枕崎市立桜山中学校

2 学年・人数

小学3年生1人（入鼓），中学2年生1人（鉦打ち）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

8月（夏休み）に鉦打ちと入鼓の個人練習（夕方2時間程度）【山下公民館】

9月20日（金）～全体練習（午後7時30分～2時間程度）【山下公民館】

10月3日（木）～全体練習（午後7時30分～2時間程度）【山下公民館】

（2）発表の日時・場所

令和元年10月28日（月）午後1時～豊年祭踊り奉納【南方神社】

令和元年10月29日（火）午後1時～豊年祭踊り奉納【妙見神社】

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

（1）名称

山下・水流太鼓踊り（やました・つるたいこおどり）

（2）由来

今から約400年前（1596年～1614年頃），薩摩藩士島津義弘公が度々の出陣の際，兵の士気を鼓舞するために踊らせたものだと言い伝えられている。現在では五穀豊穰を祝い神社に奉納している。戦時中には中断していたが，昭和24年市制祝賀の参加がきっかけとなり復活した。

（3）構成等

大人の踊り子約20人が鉦打ちと入鼓を囲みながら円陣を作って踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

（1）本太鼓踊りは，桜山校区の西鹿籠地区に伝えられたもので，山下公民館長が保存会の代表でもあり，中心となって取り組んでいる。

（2）練習には保存会員はもちろん，公民館の役員や女性部会の皆さんの協力をいただいている。

（3）伝承活動に係る費用は，市内全域の企業からの寄付をはじめとして地域の方々の寄付や御芳志，山下・水流両公民館からの助成，桜山校区公民館連絡協議会からの助成，枕崎市からの助成等で賄っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

伝承を中断させないために，山下・水流両公民館に関わるすべての人々の協力を得ることが何よりも大切だと思う。特に踊り手の新人確保が重要で，高校生を含めた青壮年の参加は必須であり，特に少年期から親子での参加を促し，地域行事に興味をもって自然な形で参加できるような環境づくりにも努めている。また，保存会の代表が公民館長でもあることから，公民館行事等で青壮年部との信頼関係が築かれており，本年度も集落内にいる青壮年の全員が踊り

子として参加できた。

今後は、山下・水流集落関係者のみの限定ではなく、全市的に踊り子として協力可能な人は1人でも2人でも参加してもらいたい。

7 取組の様子（発表の場）



〈南方神社〉



〈妙見神社〉

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- 鉦打ちは中学校野球部，入鼓は剣道少年団に所属し，日々の練習や対外試合等があり，部活動と太鼓踊りとの両立が大変な中，夜に公民館長宅での太鼓踊りの指導を受けながら踊りを習得し，本番の豊年祭り（ホゼマツリ）では，地域の人々に見守られる中，立派に披露し神社に奉納できた。また，保存会や保護者からも安心して見ていただけるようになったとの声が寄せられ，10月29日の祭り打ち上げの反省会では，警察署長をはじめ小・中学校の校長，教頭，担当の先生から「本当によく頑張ったね。」と労をねぎらっていただいた。（保護者から）
- 保護者の苦労も大変なものがあったが，地域の人たちのおかげで大きな行事を成功し，その力で地域が発展・充実していくとともに，青少年もそういう経験を体得しながら健全育成につながっていくように思う。これからも，太鼓踊りの伝統文化継承となる地域発展に寄与したい。（保存会から）